

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401012		
法人名	社会福祉法人 幸和会		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町牛口名373番地2		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人に寄り添い、皆さんが楽しく安心して生活できるように支援している。入居者の方に季節がわかるように、季節感のある装飾の工夫をしている。(壁画・花飾りなど)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの共用空間は、毎朝、窓を開け換気を行い、清掃は欠かさず実施し、清潔で心地よい空間が保たれている。理念「家庭的な愛情とやさしさを持ち共に仲間として暮らします」を玄関及び事務所に掲示し、職員が毎日確認して周知を図っている。ホームには季節感のあるはり絵や飾り物、季節の花を活けるなど入居者が四季の移ろい感じてもらえるよう工夫している。誕生会や敬老会には、ちらし寿司や魚料理を提供し、夏祭りには素麺流し、毎月1日・15日には赤飯を提供するなどのほか、料理の盛り付けや色彩にも配慮し、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。近隣に協力医療機関があり、緊急時には即応できるよう連携体制を整備し、入居者や家族の安心に繋げている。年2回、職員は自己評価を行い、理念に沿った介護を実践できているかを振り返りながら、入居者が家庭的な雰囲気の中でいつまでも自分らしい生活を送って頂けるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲示している。その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	理念「家庭的な愛情とやさしさを持ち共に仲間として暮らします。思いやりを持って接します。信頼される介護者であるよう努めます。地域社会に貢献します。」を玄関・事務所に掲示し確認している。年2回、職員は、自己評価を行って理念に沿った介護ができていないか振り返り、家庭的な雰囲気の中で、いつまでも自分らしい生活を送って頂けるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流・他の法人との合同消防訓練など行っている。コロナの影響で近年は、保育園・地域との交流は行っていない。	ホーム周辺の農家の方から野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。毎年、サンタクロースの恰好をして入居者が近隣の保育園を訪問し、プレゼントを持参するなど交流している。コロナ禍で現在は保育園との交流や福祉体験学習などの受け入れはできていないが、コロナ禍やインフルエンザの流行が収束したら交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園訪問や中学生の福祉体験学習で、事業所に対する理解が深まる取り組みを行っている。コロナの影響の為、現在福祉体験学習は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、グループホーム内の取り組み・ヒヤリハットや事故報告など報告し、地域とのつながりが持てる意見交換を行っている。	2ヵ月毎に開催する運営推進会議は、隣接するグループホームやすらぎと合同で開催している。島原広域市町村圏組合の保健師、民生委員、家族代表(やすらぎ)、管理者2名、職員が構成委員となっている。入居者の状況、活動報告、ヒヤリハット、事故報告を行い、委員の方より意見や助言を得ながら運営に活かしている。書面会議の際は議事録を配布して電話で意見を聞き次の運営推進会議に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、島原地域広域の職員の参加がある。その時、活動内容・事業内容のほうこくを行っている。その後、助言や指導などもらっている。	入居後に要支援1に変更した方のケースで、地域包括支援センターより雲仙市の介護施設の情報を掲載した資料を入手し、介護老人福祉施設へ円滑に移行した事例が窺えた。市保護課の担当職員がホームへ生活の様子を見に訪れたり、各種申請方法や情報交換等を行うなど、関係機関と協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に施設内勉強会、資料を配布しコメントを書いてもらっている。身体拘束の事例はない。	身体拘束適正化のための指針を整備している。運営推進会議の委員が身体拘束適正化委員会の構成委員になり委員会を開催している。職員は身体拘束や虐待防止についてユーチューブを閲覧したり、資料を取り寄せ回覧するなどし、学んだことは研修報告書に残して提出している。禁止対象となる具体的な行為を正しく確認し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内勉強会、資料を配布しコメントを書いてもらっている。利用者の声かけに気を付けるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識が不十分であり、今後研修などで学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者・ご家族の方に丁寧に説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望などないか聞いている。できるだけ受け入れるように心がけている。	職員は入居者の100歳の祝いを自宅で行いたいという要望を施設長に伝え、コロナ感染状況を踏まえた対応にて家族と記念写真を撮る支援を行った。入居者と一緒に暮らしたいとの要望には、毎日、面会可能とするなど柔軟に対応している。家族の意見や要望は可能な範囲で運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話の中で、意見や提案など聞いている。	管理者は朝夕の申し送りの時や、食事後の時間がある際に職員より意見を聞くようにしている。希望休の取得にも柔軟に対応している。職員のチームワークも良く、管理者や永年勤務の職員より助言もあり、相談しやすく働きやすい職場環境整備に取り組んでいる。	介護現場においてもハラスメント対策の強化が求められており、より円滑に職員意見の反映に繋げる為にも、今後、ハラスメントに関する基本方針の明確化、マニュアル整備、相談対応窓口の設置等、具体的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間は病院本部が管轄している。職員から要望など出た時は、本部に相談したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受け入れる機会の確保や働きながら資格を取れるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の部署との勉強会など、勉強する機会をつくっていたが、コロナの影響で現在行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話の中で、意見や要望など出た時は、できるだけ実現できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけでなく、普段の面会時に家族の顔を見たら声をかけ、近況などを伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。必要な人には訪問歯科診療など取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・洗濯物たたみ・食器拭きなど利用者と一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族や友人が面会に訪れた際、お茶を出して居室でゆっくり過ごしてもらっていたが、コロナの影響で面会時間が短くなり、ゆっくり過ごす時間が無くなっている。	コロナ感染症が5類となる中、面会時は手指消毒、マスク、検温を実施して行っている。夏には玄関先のテーブルの上に花を飾り、ベンチに座り会話ができるように、また、冬には中玄関に椅子を置き面会者と会話ができるよう支援している。親族等から電話があった場合は、本人に取り次ぐなど馴染みの人と関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器洗いや洗濯物たたみを一緒にしていただくなど入居者同士が関われる環境を多く見つけ、共同生活がおくれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が死亡された家族の方が新聞を月2回持ってきて下さる方や誕生日にケーキの差し入れを持って来られる方など関係性が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃の会話の中で得た情報を記録に残し、情報の共有している。モニタリングの中で本人・家族の意見や思いを聞きケアプランを作成している。	職員は入居者との日頃の会話の中から思いを汲み取り、難聴の方や発語が難しい方には、その方の仕草や表情を観察し、思いを汲み取っている。不穏な方には、職員が廊下を一緒に歩いたり、散歩に行くなど寄り添う支援に努めている。日頃より関わりを多く持ち、入居者の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時やモニタリング時にも聞き取りを行うなどこれまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し記録の残している。必要時、カンファレンスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に希望(要望)を聞いて、その意見に対し改善した内容を伝え、実践した結果まで伝えている。その内容を担当者会議・内容記載・実践・評価まとめてモニタリングに記載している。	入居者や家族から聞いた意見や要望を参考にしながら職員間で話し合い、看護師兼ケアマネジャーが入居者の現状に沿った介護計画を作成している。介護計画は短期の見直しでは6か月ごとに、長期の見直しでは1年ごとに行われている。入居者に状態変化があった場合は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かくケア実践・結果内容を記入している。問題があれば、その場で話し合い、変更したこと、それに対する結果を記載したり、申し送りを行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設だけで解決できない事案や家族要望に対し、市役所福祉課スタッフ・社会福祉事務所スタッフなどへ相談し対応してもらうことがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、地域の関わる方々と情報交換し把握する機会をつくっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時は、在宅での主治医への受診継続を優先しているが、家族による受診の送迎が出来なかったり、当施設が連携している病院への受診を希望されているときは安藤医院へ受診している。	これまでのかかりつけ医を継続して受診することは可能であるが、その場合は家族による同行となる旨を説明し、入居後はホームの協力医に変更するケースが多い。近隣に協力医療機関があり、緊急時には即応できるよう協力体制を整備し、入居者や家族の安心に繋げている。他科への受診には家族が同行している。協力医を受診する際は職員が前もって入居者のバイタルカルテを持参し、診察の順番を待たず円滑に受診できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフより変わったことがあればすぐに看護スタッフへ連絡している。看護スタッフが出動していなくても、電話連絡して、報告・相談などしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院については、入院先の医療連携室スタッフや病棟看護師と情報交換を行い、密に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に急変したときや終末期におけるの方針は、本人やご家族に尋ねている。実際に急変したときは救急車による緊急対応をし、入院した先にて、病院スタッフと共に対応する。終末期は、主治医、ご家族と相談し、希望を聞き、現状に合わせ施設において対応する。同敷地内の病院看護スタッフに協力してもらうこともある。	入居時に看取りに関する指針を説明し、家族より同意を得ている。入居者の重度化に伴い、入居者・家族・主治医・看護師・職員と相談しながら看取りの方針を共有して支援している。	入居者・家族の希望に応じて看取りを行う方針であり、看取りの手順を再確認することや、看取りに対する職員の精神的不安も想定される。今後、看取りに関する研修や看取り支援後の職員の精神的負担について把握し、必要に応じて職員ケアを実施するなど体制を整備することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病変初期の段階で先をみこし、急変事故に備え、その事例に合った具体的な手当や対応の仕方を全スタッフに伝えている。応急手当・訓練など定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を他の部署との合同訓練を行なっている。地域の方の参加は、コロナの影響のため実施していない。	日中及び夜間を想定し、定期的に避難訓練を実施している。訓練の記録には消防署の評価、職員の反省点を記載し、職員共有にてフィードバックしている。近隣に協力医療機関があり、有事の際は協力を得られる体制を整備している。備蓄は飲料水、食品3日分の生活用品等を備えている。有事に備えBCP(業務継続計画)を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排せつ・オムツ交換時には注意を払い、介助を行っている。	入浴やトイレ誘導の際、無理や強要をせず、入居者の意思や気持ちを尊重しながら支援している。職員が居室へ入室する際は、ノックをして本人へ声掛けしてプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や入浴など、本人の希望を尊重し実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩等、希望があれば付き添い実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3か月に一回散髪を行っている。衣類の選択ができる方は、本人に任せている。散髪は、資格を持ったスタッフがいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などには、入居者に食べたいものを聞き取り提供している。食材の下ごしらえや食器拭きなど手伝ってもらっている。	食事は旬の野菜を用いて、職員が調理している。菜園で収穫した野菜を付け合わせにすることもあり、入居者より「やっぱり採れたては美味しい」と喜ばれている。重度化した方にはミキサー食、小刻み、粥にして提供している。誕生会、敬老会にはちらし寿司や魚、夏祭りには素麺流し、1日・15日には赤飯を提供している。ホットケーキやおはぎづくりの際は、カップの計量作業を入居者も一緒にやっている。料理の盛り付けや色彩に配慮し、入居者が食事を楽めるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録している。食事時以外にも水分補給を行っている。本人希望時にも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、自分で行ってもらい、介助が必要な方には介助し、義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、時間を見て声かけしトイレ誘導をしている。	職員は其々の入居者の排泄パターンを排泄チェック表にて把握し、チェックの記録がない方には、声掛けてトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう努めている。日中と夜間帯は、それぞれパットの大きさを変え、尿漏れしないよう職員間で話し合い、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取するように心がけている。牛乳やヨーグルトなども摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴してもらっている。季節湯(菖蒲湯・ゆず湯)など実施している。	職員は入浴前に入居者のバイタルチェックを行い、入浴を支援している。週2回の入浴を基本としているが、必要に応じて毎日でも入浴できる。長湯が好きな方には急がずゆっくりと入浴を楽しめるよう入浴の順番を考慮し支援している。入浴を拒否する場合は、職員を変えて声掛けし、無理をせず、状況に応じて翌日以降に入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が充分とれるように、日中の活動のリズムを付けて過ごしてもらうようにし、時には、体調を見て無理なく過ごしてもらうよう、自室で休憩してもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の誤薬防止に努めることは勿論、病状・体調変化に気を配り、服薬後の飲み込みまでの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴・特性を踏まえた会話を考慮し、洗濯物干し・洗濯物たたみ・食器拭き等できることへのお手伝いをして頂いています。レクリエーション活動で活気を与える支援も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・気温・体調を見て、戸外への散歩・外気浴を実施。外出希望があればご家族にその旨をお伝えしています。	入居者が寺院に参拝したいとの希望を把握し、家族の協力を得ながら受診の帰りに参拝を支援したことが窺えた。好天時は敷地内の紫陽花を見学し、写真撮影をしたり、ホーム菜園にて栽培した野菜の収穫や、ベンチで見学するなど外気浴し、気分転換を図っている。地域のスーパーまで散歩し、饅頭を購入しておやつにするなど外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では、現金の預かりをしていません。必要なものがある時は、ご家族に連絡して買ってきてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望により、ご家族に連絡や電話の取次ぎ、手紙のやり取り支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移り変わりを施設内でも感じてもらうよう、ポスター壁画・花で季節感を味わい工夫をしています。	共用空間は毎朝窓を開け、換気を行い、掃除機やモップを用いて清掃し、清潔で心地よい空間を保持している。エタノールで手すり、テーブル、イスなどを拭き、衛生面に配慮している。季節の貼り絵や飾り物、季節の花を活けるなど、入居者が四季を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいて、自身の落ち着く場所で座っておられ、自然と相性の良い方との接点を持ちながら過ごしておられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、使い慣れた身近なもの、家族の写真等も置いたり記念日のメッセージ、作品など飾り明るい空間づくりも行っています。	居室の入り口には入居者の写真を貼り、見当識に配慮している。居室は、毎朝、窓を開けて換気し、整理整頓されている。居室には、衣装掛け、衣装ケース、整理タンス、家族写真、置き時計などの手回り品を持ち込まれ、本人らしい居室になっている。週1回、シーツ交換を行い、気持ちよく睡眠できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口には貼り紙をし、位置がわかるようにしたり、排尿の回数が多い方には、トイレに近い場所に居室を設けるなど配慮している。		